

平成30年第3回高山市議会定例会 一 般 質 問

◎一般質問の順序

月 日	議 員 名	会 派 名	ページ
6月12日(火)	1. 西田 稔 議員	高山市政クラブ	1
	2. 沼津 光夫 議員	高山市政クラブ	2
	3. 榎 隆司 議員	高山市政クラブ	3
	4. 谷村 昭次 議員	創政クラブ	4
	5. 倉田 博之 議員	創政クラブ	5
	6. 車戸 明良 議員	創政クラブ	6
6月13日(水)	1. 山腰 恵一 議員	高山市議会公明党	8
	2. 中箴 博之 議員	高山市議会公明党	9
	3. 谷澤 政司 議員	無 会 派	10
	4. 松山 篤夫 議員	無 会 派	11
	5. 上嶋希代子 議員	日本共産党高山市議団	13
	6. 牛丸 尋幸 議員	日本共産党高山市議団	14

◎質問時間等については以下のとおりです。

議員の質問のみで40分。質問回数は制限なし。

※ 反問に要した質問及び答弁の時間は持ち時間に含めない。

◎一般質問の内容は次のとおり通告されています。

【西 田 稔 議員】

1. 登下校中の児童生徒の安全対策について

- ①市内における声かけ事案や連れ去り未遂等の状況は
- ②不審者情報は適正に配信されているのか
- ③子どもたちの安全を確保するために防犯カメラ設置や見守り活動の実態と強化の考えは

2. 部活動指導員の配置推進について

- ①現在委嘱している外部指導者の状況及び指導の適正化をどう確保しているか
- ②県内では休日の部活動を廃止した自治体がある。部活動の意義と継続についてどう考えるか
- ③今後、部活動指導員の配置をどう推進していくのか

3. ものづくりと地域活性化について

- ①産地カンファレンス i n 高山 2 0 1 8 の成果をどう捉えているか
- ②家具産業を発展させるため生産、製造、販売までの6次産業化が必要と考えるが市の見解は
- ③街なかショールーム化を更に推進するための市の考えは

4. O N S E N ・ ガス ト ロ ノ ミ ー ウ ォ ー キ ン グ の 成 果 と 今 後 の 課 題 に つ い て

- ①O N S E N ・ ガス ト ロ ノ ミ ー ウ ォ ー キ ン グ の 成 果 を ど う 捉 え て い る か
- ②奥飛驒温泉郷の誘客・活性化のために各種イベントを継続すべきと考えるが市の見解は

【沼津光夫 議員】

1. 荒城川の水質について

- ①丹生川ダムの流量調整により水量が少ないため水質が悪く漁業協同組合からの苦情も出ている。対応できないか
- ②上流に畜産の大規模な施設があり汚水処理の色水が出るのが環境的に問題があると思われるが、どのように考えているか

2. 飛騨牛の販売状況と生産面での課題について

- ①肉用牛の昨年度の生産状況は
- ②飛騨牛の販売状況、特に海外への輸出は増加しているとのことだが、今後の具体的な見込みは
- ③堆肥の需要が減っている状況をどう分析しているのか
- ④堆肥の需要を増やすにはどうすべきと考えているのか

3. 飛騨高山ブランドの推進について

- ①材料・生産者・販売等一連のサイクルが完成してこそ飛騨高山ブランドとしての価値があると思うが

【榎 隆 司 議員】

1. ごみ処理について

- ①ソーラーパネルの設置状況は。また、廃棄処分方法をどのように考えているのか
- ②発電システム火災に対する消防活動における安全対策はできているのか
- ③焼却炉の延命措置に伴いごみ等の分別及び減量化が必要と考えるが
- ④民泊におけるごみ処理の課題は
- ⑤学校ごとに給食残渣を堆肥化処理する考えは

2. 障がい者施策について

- ①視覚障がい者の歩行移動を支援するための音声案内システムを導入する考えは
- ②農福連携の推進についての市の考えは

3. 高齢者施策について

- ①介護保険制度の改正に伴い自治体の取り組みが国からの交付金に反映されるが取り組み状況は
- ②介護予防の活動に参加する高齢者を増やすことが大切と考えるが市の考えは
- ③ケアプランの作成にA I 機器を活用する考えは
- ④認知症徘徊による損害に対する賠償責任保険への加入を促進し支援する考えは
- ⑤温泉保養施設等利用助成制度を見直すなど更なる促進の考えは

4. 公共施設について

- ①修繕が必要な公共施設の早期改修はできているのか

【谷 村 昭 次 議員】

1. 定住者数の変遷と都市（まち）政策について

- ①市人口ビジョンにはない人口推移と変化を地域別での定住者増減数値で比較をしてみると、人口・世帯数ではかなりの地域差が生じた結果からこれまでの政策をどう検証し、なにを補うべきと考えるか
- ②地域別での平成17年対比の定住者増減数と減少比率の比較から、一之宮地域での減少数と国府地域での減少率が極めて少ない結果をどのように分析し評価するのか
- ③定住促進対策では地域ごとでの住民満足度を高めることが必然である。市は地域別の将来予測（政策）を練り上げる考えはあるのか
- ④協働のまちづくりでの財政支援において、人口割の構成要素に人口増減比率による補正を加えた配分見直しの考えはないか
- ⑤平成31年度採用の市職員募集枠において技術職民間経験等の受験資格を飛騨地域外に限定した意義は。また、採用に対して定住支援の考えは。さらに、技術職員育成の将来ビジョンをどう描いているのか
- ⑥行政の本質は「現場から始まり現場に還る進化サイクル」と言うが、人口減少時代に適応したまちづくりでは住民に何を求めていくのか、その具体策は
- ⑦「川筋・道筋まちづくり」の視点についてどのような認識でいるのか。危機感を持ち広域連携の強化による市民生活維持の環境をさらに整えることが必要ではないか
- ⑧地域活性化には住民自身の熱意が必要不可欠ななかで、地域の声を「やってくれない」から「やらせてくれない」へと住民意識をどのように変化させるかにかかっている。市はどのような方策で寄り添い、克服していく考えなのか
- ⑨目先の行政効果と中長期の行政効果は必ずしも一致しない。多数の利益（公益）と少数の利益（私益）において行政はトータルとして行政効果を最大化する考えなのか。また、少数者、小数地域の生活維持・向上にどう配慮し応えていくのか

【倉田博之 議員】

1. 高山市型コンパクトシティ構想の明確化について

- ①市長から「平成からの伝言」として5月20日に新聞掲載された「あの合併は正しかったのだろうか」で始まる記事は様々な受け取り方ができるが、そのメッセージの真意は何か
- ②今後のまちづくりにおいて、高山市を総合的に整えていくためには支所地域や過疎地域のビジョンを明確にすることが重要と考える。目指す姿はしっかりと定められているか。そのための努力を惜しまない意思是市民にしっかりと伝わっているか
- ③支所地域に特化し、それぞれに分化した方針は八次総においてほとんど見られない。また、市の都市マスタープランは都市計画区域内のみに限られる。一体化とは全てをひとくくりで語ることとイコールではないと考えるが、支所地域にも具体性を持たせた地域計画としての都市計画が必要なのではないか。そのためにも、高山市型のコンパクトシティ構想を明らかにしていく必要があるのではないか

2. 子どもを守る防犯体制の強化について

- ①防犯についての取り組みは市町村の自治事務であって法令に基づいた義務ではない。それだけに各自治体の考え方が取り組みに反映され、その体質を問われることとなるが、本市における防犯の位置付けはどういったものか
- ②犯罪の異常性がエスカレートしている。なかでも子どもが被害者となる事件の発生などは全国に激甚なる衝撃を与えており、防犯体制の拡充やさらなる強化は悲痛な叫びを伴う社会的ニーズとなっている。「生活安全条例」に基づいて市が実施している施策においても、常に新たな対応が強く求められているのではないか
- ③生活安全条例にある「安全な居住環境の整備」のためのハード的防犯体制は万全か。防犯灯や防犯カメラの設置について、制度の新設や拡充を真正面から向き合って検討すべきではないか
- ④生活安全条例にある「連携並びに情報交換」については、情報の共有対象と量をさらに拡大する必要性を感じている。そのうえで連携のネットワークははじめて強化されると考えるが、市の方針はどうか

【車 戸 明 良 議員】

1. 救急医療について

- ①高山赤十字病院循環器内科の常勤医師が4名から2名となったが、外来受診や救急への影響は
- ②虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症等）の救急搬送が心配されるが、その救急医療体制の現状は
- ③中核病院循環器内科の勤務体制など救急医療体制の現状と課題及びその取り組みは
- ④国際観光都市として救急医療の確保は必須条件だが、急病等の外国人を含む観光客の受け入れ体制と受診状況は
- ⑤救急医療を支える医師の疲弊の要因の一つとして、緊急性が低い軽症患者が休日や夜間に救急外来を受診するコンビニ受診が指摘されているが現状は

2. 中核病院について

- ①最近の医療は指定医や認定医という資格が優先され、今年度から新たに専門医制度が導入されたが、その効果や医師確保など市内の病院への影響は
- ②地域医療体制の確保のためにも専門医制度開始に伴い市としても支援を検討すべきでは
- ③県の地域医療構想では、飛騨圏域について人口減少等により平成37年には現状より430床少なくとも医療需要に対応できるとしている。市はこの地域医療構想をどう捉えているのか
- ④高山赤十字病院は老朽化に伴い新築移転を検討していると聞くが、その状況は。市は県の地域医療構想も踏まえ積極的に関わる必要があるのではないか
- ⑤市内の2つの中核病院を中心として市は地域医療の水準を維持向上させる必要がある。そのためにも、地域医療連携推進法人のシステムも視野に入れ、診療科、病床区分の棲み分けなど中核病院のあり方について積極的に関わり取り組むべきではないか

3. 在宅医療について

- ①かかりつけ医と病院との連携状況及び初診時選定療養費の背景と影響は
- ②在宅医療の現状と見通し及び今後の取り組みは
- ③訪問診療の現状は。また、開業医の高齢化により訪問診療の確保が困難となつてくるが、今後の対応は
- ④地域医療を取り巻く環境が変化するなか、市民が安心して医療を受けられる環境を整えるために何が課題と捉えているか。また、医療行政の役割は重要だが、その取り組みは

【山 腰 恵 一 議員】

1. 空き家対策について

- ①増え続ける空き家を未然に防ぐための予防策について具体的に市はどう考えているのか
- ②所有者調査によりデータベース化された空き家情報はどのように活用されるのか
- ③空き家バンクの現状（物件数、契約数）と利活用の今後の展開は
- ④特定空き家に至るまでの判断基準や手続きなど市独自のガイドラインを策定する考えは
- ⑤空き家を除却した場合、住宅用地の特例措置が解除されるため固定資産税が6倍になる。他市では固定資産税を減免する取り組みがあるが市の見解は
- ⑥空家等対策計画策定の進捗状況は

2. 小中学校における心肺蘇生教育の推進と教職員の危機管理体制について

- ①児童生徒への心肺蘇生教育の現状と取り組みは
- ②児童を対象にした「ジュニア救命士」を養成する取り組みを推進する考えは
- ③教職員への心肺蘇生講習の実施状況と具体的な取り組みは

3. 人口減少社会における関係人口の創出について

- ①高山市公式ファンクラブ飛騨高山めでたの会の取り組みの現状と、今後のさらなる展開策は
- ②関係人口という視点において「地域に関わってくれる人口」の創出について、市の見解は

【中 箴 博 之 議員】

1. 大学連携の展望について

- ①大学連携センター開設1年間の活動と評価は
- ②学生たちの受け入れや研究活動の環境は十分か
- ③大学と地元高校の連携や大学間の連携など今後の拡大・展開は
- ④大学連携の先に描くビジョンはあるのか

2. 文化の薫るまちづくりについて

- ①過去2回の開催をふまえ第3回文化芸術祭こだま〜れの展開は
- ②目指す姿としての「文化の薫るまちづくり」は描けているのか
- ③思い切って市庁舎ロビーをリニューアルする考えは

3. 市長として3期目に挑む覚悟について

- ①2期8年をどう総括し市長選に臨まれるのか
- ②政策の優先順位の考え方は。また、新たに加えられる公約はあるのか
- ③教育への思い切った予算配分が必要と考えるが
- ④市の経営者としてまちの持続可能性についてどう考えるか
- ⑤政策決定過程における職員参加の考え方は

【谷 澤 政 司 議員】

1. 市道沿線の危険箇所の対応について

- ①市道沿線の土砂崩れの恐れのある危険箇所の状況は
- ②高根町の市道池ヶ洞線は急峻な斜面からの倒木と土砂崩れにより通行止めになり池ヶ洞の住民が孤立した。この道路は数年前にも倒木により孤立した経過があり、市道池ヶ洞線の整備に向けた取り組みは

2. 防犯カメラの設置について

- ①国内外から多くの旅行客が訪れるため、犯罪の発生防止を目的として防犯カメラを設置する必要があると考えるが、市の考えは

3. 学校統廃合により廃校した校舎とグラウンドの管理について

- ①支所地域の廃校した校舎などの管理状況は
- ②旧丹生川東小学校体育館の屋根はサビが多くなり雨漏りの恐れがある。グラウンドにも草が生い茂っているが市の対応は
- ③旧秋神小学校のグラウンドは草が多く動物が入りやすくなっている。安全確保の必要性からグラウンド整備の考えは

【松 山 篤 夫 議 員】

1. 文化政策について

- ①近年、縄文文化への関心が高まっている。今年は東京国立博物館で特別展「縄文ー1万年の美の鼓動」の展示がある。市も縄文特別展を開催して縄文フェアを実施したらどうか。市の考えは
- ②縄文時代の生活と祭祀、文化的交流のあり方を知る上で重要な堂之上遺跡や風土記の丘史跡公園を「旅する知」の観光資源として活用し、もっと積極的に誘客推進してはどうか。市の考えは
- ③縄文時代は1万年以上にわたり自然と共生した文化が続き、ほとんど戦争の跡が見られない平和な時代であり、お互いの多様性を認め合う寛容さのある社会であった。平和の学びとして、縄文人のあり方を学校教育で学習したらどうか。市の考えは
- ④広瀬城の国指定文化財申請に必要な現況測量調査の現状と申請のロードマップは。また、飛騨市は姉小路氏関連城館群（小島城跡、古川城跡、向小島城跡、小鷹利城跡、野口城跡）の整備活用事業を推進し、平成33年を目途に国指定の申請を行う計画であるが、高山市は、広瀬城をこの山城群のブロックの一つとして広域連携して共同申請するのか、それとも単独申請するのか。市の考えは
- ⑤6月1日に改正文化財保護法が成立した。保存活用の「地域計画」を策定した自治体は国に対して登録文化財の提案などが可能になる。また、これまで国の許可が必要であった軽微な現状変更が自治体判断で可能になる。市の「地域計画」策定についての考えは
- ⑥この改正法は地方教育行政法の規定も改め、「まちづくりと文化行政」を一体化して地域活性化を進めるために文化財保護を担う部局を首長部局に移管できるように改正されたが、市の考えは

2. 林業政策について

- ①森林環境税及び森林環境譲与税と合わせ国が進める「新たな森林管理システム」で市はどんな山をつくろうとするのか
- ②50年で主伐ではなく、80年、100年をかけて木を育てるのも「意欲ある林家」である。そういう人にも支援できるようにしないといけないが、市の考えは

- ③森林経営管理法に対して、長期的な多間伐施業による持続的・永続的な森林経営を市はどう位置づけるのか
- ④森林経営管理法に対して、多間伐施業を担う自伐型林業者を担い手として市はどう位置づけるのか
- ⑤森林経営管理法に対して、無垢材の生産と流通（A材以上）を市はどう位置づけるのか

【上 嶋 希 代 子 議員】

1. 障がい児者への支援について

- ①視覚障がい者用信号機の設置を拡充する考えは
- ②点字ブロックについて視覚障がい者団体から見直しを求める声があるが、市の考えは
- ③知的障がい者に交付される療育手帳を短期間に交付できないか
- ④知的障がい者のグループホーム拡充を求める声があるが、市の考えは

2. 若者の定住支援策について

- ①若者の定住支援策の現状をどう考えているか
- ②若者の声をもっと聴き支援すべきと考えるが、懇談の機会を充実させる考えは
- ③イータウンを若者（高校生も）が気軽に立ち寄れる場にできないか

3. 高山厚生病院への支援について

- ①住民も入院関係者も存続を望んでいる高山厚生病院の現状を市はどうか把握しているか
- ②病院の存続と老朽化に対して、市はどうか対応するのか

【牛丸尋幸 議員】

1. 高齢運転者の免許返納について

- ①市内の高齢者の免許保有状況と免許返納状況は
- ②事故防止対策と免許返納しやすい環境づくりについて、市の考えは

2. 事業承継について

- ①商工会議所の事業承継実態調査報告書が出されたが、市の対応は

3. 市長の市政運営について

- ①2012年9月議会「公務員倫理の確立を求める決議」に対し、市長発言「組織を挙げて再発防止に取り組み、市民の皆様からの信頼回復に努めてまいります」、2016年3月議会「市民との信頼関係の構築を求める決議」に対し、市長発言「倫理観の確立とともに、市民から信頼を得られる市政運営に努める所存でございます」、2017年9月議会「公共施設台帳等の適正な管理を求める決議」に対し、市長発言「市民の皆様からの信頼に応えられるよう、執行機関自らがチェック機能を十分果たせるよう内部統制を徹底するなど、適正な事務執行に努めてまいります」とある。信頼回復のために、具体的にどう取り組み、市政運営はどのように変わったのか
- ②市長の海外出張について、2010年の初当選以後の回数及び随行者を含めた経費の総額は
- ③市長の海外出張について、市民の批判がよく聞かれるが、市長には届いているのか。また、どのように受け止めているのか
- ④市長の海外出張に海外戦略顧問も随行しているが、回数と費用の総額はいくらか。また、どのような仕事をされているのか。報酬はどのようにになっているのか
- ⑤今年の4月の市長の海外出張には、市長と海外戦略顧問、そして随行の市職員は海外戦略課と市民課の女性職員2人の合計4人でイタリアとモロッコへ11日間出張している。なぜ市民課の女性職員が随行したのか

- ⑥新ごみ処理施設建設について、2018年2月19日総務環境委員会での市長発言
- 「現状として、施設の延命化は、ただいま説明をいたしましたとおり、これ以上延ばすことは困難と見込まれること、そして、早期の施設整備を求める声があることなどを総合的に勘案し、従来からお示しをさせていただいている候補地で建設をさせていただきたいとの考えでございます。したがって、候補地を変更する考えはございません」とある。この発言の趣旨は、「地元4町内の合意がなければ進めない」とのこれまでの答弁を見直したということか